

団長の独り言

2月19日(土)「劇場でお会いしましょう」

先週の日曜日、14時から音声ガイドの収録を行った。

音声ガイドというのは、舞台の進行状態をFMラジオにてお伝えするガイドシテム放送の事で、主に目の見えないお客様が利用される。

例えば、舞台上で恒雄が無言でグラスを眺めるとする：見えているお客様ならば、「恒雄がグラスをじっと眺めている」のは分かるけれど、見えていないお客様からすると、恒雄が無言で芝居をしていると舞台上で何がおこったのか分からない。そこで「グラスを見つめる恒雄」というガイドを入れると、理解していただける。

まあ！こんな感じで、約2時間のお芝居にそうだなあ…：100個以上のガイドを入れていくのだ。それ以外に舞台上の説明も上演前に流れる。

例えば舞台前方にテールとイスがあり、舞台の右奥は一段高くなっている畳敷の楽屋がある…：等ね。

そのガイドのナレーションを担当しているのが、NHKのアナウンサーで、劇団ふあんハウスネーム・ボイスエマノンさん。エマノンさんのお付き合いも、もう24年になる。

劇団ふあんハウス第2回公演が、朝日、読売、毎日、サンケイ新聞に掲載されて、

それがきっかけで、私は情報番組「おはよう日本」に生出演した。その時のメイン司会がボイス・エマノンさんだった。

その後、番組出演をきっかけに、お互いに連絡を取り合うようになり、ボイスさんと出会ってから5年後くらいした頃かな？劇団ふあんハウスで音声ガイドをやってみよう！って事になり、ダメ元でガイドのナレーションをお願いしてみたら、快く引き受けてくれて、以来20年近く、ボイスさんはボランティアとして劇団ふあんハウスの音声ガイドを担っている。

そのボイスさんが今回も稽古場にお越しになり、素晴らしいガイドを収録して下さい、収録後は、劇団メンバーとテールを囲んでお茶会を行った。

ニュースを読んでいる時はお堅い感じのボイスさんだけど、関西人らしくいいノリのいいユーモアに、みんな大笑いしつつも、プロのアナウンサーとは？みたいなお話も伺う事も出来、ボイスさんに刺激を受けたメンバー達は、本日、ついに最終通し稽古の日を迎えた。

昨日は、照明会社・六工房の大塚さん、舞台監督の高橋さん、音声ガイドオペレーター的美鶴さんが見守る中での通し稽古を行った。前回の通しは散々だったので、この日はどうか？とちょっとドキドキしたけれど、芝居そのものはテンポもよく、いい感じでの通し稽古となる。

というか…：この日の私は、照明さんへお伝えするためのタイミングのチェックや、音声ガイドが的確に入っているのかのチェック等を行いながら、完全スタッフ目線で芝居を観ていたので、役者の芝居はそこまで細かくは観てはいなかった。そのため、ダメ出しノートにも役者へのダメはほんの2、3個。

通し稽古を観ていても、みんな元気があつていいね！って思えたので、大丈夫なんだろうって思い安心し、家に帰って録画していた稽古風景のビデオをみると…：元気はいいし、テンポもいいけれど、誰も彼も大声で叫んだような芝居をしていて観ていて疲れてしまった。

稽古中、「元気よく！覇気を出して！」「エネルギーが感じられない！」ってダメを連発していたので、その事を意識し過ぎたがためにこんな事になっていたのだ。

そこで迎えた本日の最終通し稽古。12時45分の入室時間と同時に、平野カーク超満載の荷物を全員で稽古場に運び込み、手分けして「通し稽古」の出来る準備を行う。

最初の頃は、準備にまごついていたので、今では早い事！早い事！おかげ様で、通し開始時刻まで多少の時間的猶予があったので、昨日のビデオを観てのダメを出し、舞台監督さんと音声ガイドの美鶴さんが見守る中、ちゃんとした広さを確保する中で最後の通し稽古を行う。

昨日はスタッフ目線だったけれど、今日は徹底的に観客目線で芝居を観ると、とりあえずは申し分ないレベルで終える事が出来た。

しかし、ここまで出来たのならばって事で、さらなる味付けがたくなり、1時間の休憩後は、徹底的に抜き稽古を行う。

連日の昼夜稽古で、皆さんは相当疲れているはずなだらけれど、「やるぞ！」って熱気が伝わってきたので、この期に及んで？ってわけでもないが、芝居の味付けのため、大幅に動きや芝居を変えた役者もいれば、大きな変化があるわけじゃないけれど、人物の心情的な部分に対する繊細なダメを出させてもらった役者もいた。

これは賭けだったけれど、「混乱して芝居が壊れるかな？」という心配をいい意味で裏切ってくれまして、とーっても面白くて、とっても素敵で芝居が完成した。あとは木曜日に最後の抜き稽古を行い、いよいよ劇場へ向かいます。

25周年にふさわしいお芝居が完成しました。皆様！ご期待くださいね。